



名古屋経済大学附属市邨幼稚園

ふたばだより

2025. 5. 14 西尾 ・ 石田



風にそよぐ若葉が美しく、芽吹きのパワーを全身で感じる季節となりました。今年度のふたばランドがスタートしました。ふたばランドは、未就園のお子さんと保護者の方が、市邨幼稚園の自然の中でのびのびと遊び、ほっとひと息つける場所です。季節を感じる活動や、園庭で葉っぱやどんぐり、小さな虫たちと出会いながら、子どもたちはそれぞれのペースでゆっくりと世界を広げていきます。また、同じ子育て仲間とおしゃべりを楽しんだり、分かち合ったりできるあたたかな時間になればと思っています。

今月のさつまいもの苗植えでは、畑の土に触れたり、たらいに入れたダンゴムシやミミズを見る・触るなどの経験をしたりして親子で楽しみました。ふたばランドへどうぞ、気軽にご参加ください。

6月の予定

 園庭開放 10時30分～ 幼稚園園庭

6月 2日(月) 16日(月)・30日(月)

 ふたばランド 10時30分～11時15分

6月 3日(火) いろんなスタンプでバッグを作ろう

野菜、お花などを絵具につけてスタンプあそびをします。

6月17日(火) お星さまに願いを込めて☆七夕飾りづくり

手型を使った織姫・彦星や、スイカ、アイスクリームに指スタンプをして飾りを作ります。



* 子育てコラム *



ケガをしたときに、なかなか泣き止まない、治っていても「ばんそうこう貼って…」ということ、ありませんか。そんな時に思い出してもらいたい子どもに触れるコツをご紹介します。

「ケガにこころを残さない」

子どもが「ケガをした!」と訴えてきたときに、つい大人は、「これくらい大丈夫よ」と声をかけてしまいがちですが、そうではなくて「痛かったね」と訴えを認めてあげること。すると訴えを聞き入れてもらったということで、子どもはまず安心して、そこで不満が残らないのです。コツとしては「痛いね」ではなく「痛かったね」と過去形で認めること。訴えを認めながらも過去のものとして流してゆき、いつまでもそこに囚われないように心の角度を変えてゆくのです。そしてしばらくじっと手を当てて集注してもらっていると、子どももやがて呼吸が落ち着いてきます。そのときはじめて「ホラ、もう大丈夫」というこちらのことがすんなりこころに入るのです。手当ては、掌で呼吸をするようなつもりでジーっと手を当てるとい、ほんとうになんでもない、まさに文字どおりの「手当て」のことです。

『こどものこころにふれる整体的子育て』山上亮著/クレヨンハウス

この本を読んでから、娘がケガをするたびに「手当て」をしています。すごく痛かった時でも、私の手をじっと見つめて静かな時間が流れ、落ち着いていく姿があります。おそらく、こころのばんそうこう代わりになっているのではないかと思います。手を当てるだけではなく、子どもをまるごと包み込んでいるような感覚と、子どもの心にふれる大切な時間にもなっています。

もちろん、ケガに対して消毒や冷やす処置も行いますが、こころの面への処置としてやってみてもらえるといいなと思います。

